

II 図書館事業

守谷市立図書館運営基本方針に基づく事業計画を作成し、運営に当たった結果を点検・評価しました。

1 市民の求める図書や情報の収集、提供、保存

地域の情報拠点として、市民が多様な図書や情報を容易に取得し活用できるよう、図書館資料を充実し提供します。

項目	1 多様な資料の収集・提供・保存
目標・取組概要	市民が多様な情報を容易に得ることができるよう、図書資料の収集・提供・保存に努めます。また、視聴覚資料、逐次刊行物の収集・提供に努めるとともに、電子媒体資料の充実にも努めます。
自己評価	<p>図書資料14,885冊、視聴覚資料382点、雑誌331タイトル、新聞32種、電子図書171タイトルを収集しました。また、ADEAC（デジタルアーカイブ）は、「郷土の歴史」「史郷守谷」「守谷のふるさとかるた」の3タイトルを追加し、資料の充実を図ることができました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>守谷市電子図書館のホームページ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ADEACのホームページ</p> </div> </div>
今後の課題と対応の方向性	紙媒体の資料とともに、電子図書を継続的に購入し、利用を促進します。また、郷土資料等のデジタル化を継続します。資料保存においては、定期的な資料の除籍を実施し、利用者にとって新鮮で魅力あるコレクションの構築に努めます。

2 未来を担う子どもたちの読書活動の推進と、学習活動の支援

未来を担う子供たちが、読書に親しみ豊かな心を育む読書環境を充実するとともに、学校との連携の下、学習活動を支援します。

項目	1 子どもの読書活動推進
目標・取組概要	学校、保育所、認定こども園、幼稚園、児童クラブ等との連携を強化し、より多くの子どもたちが本やおはなしに触れる機会を提供します。また、図書館を利用する機会の少ない子どもたちに向けた企画を実施し、図書館の魅力を伝えます。
自己評価	① 小学生以下の子どもを対象としたブックラリーの実施や、クリスマスや節分など行事に合わせておはなし会を開催しました。また、育児コンシェルジュを指導者として、行事に合わせた工作会の実施、英語を母語とするALT経験者による英語のおはなし会、いきいき茨城ゆめ国体文化プログラム事業「いばラッキーとおは

	<p>なし会」を実施するなど、図書館を利用する機会の少ない子どもたちに向けた企画を実施しました。</p> <p>② 出張おはなし会をおはなしボランティアの協力を得て、年間2回実施しました。4施設から新たに希望があり、守谷駅前親子ふれあいルーム(エ・ガーオ)において年間で4回実施しました。残り3施設においては、年度末に予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止となりました。</p> <p>③ 生涯学習課主催で月1回開催される放課後子ども総合プラン会議において、図書館の児童サービスについてPRしました。夏休み前にPRしたことが効を奏し、平成30年度が1,812冊に対し、令和元年度は2,314冊となり、前年度の127.7%になりました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>いばラッキーとおはなし会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>育児コンシェルジュの工作教室</p> </div> </div>
<p>今後の課題と対応の方向性</p>	<p>出張おはなし会の周知を継続的に実施するとともに、子育て支援施設へのブックパックの貸出を検討し、より多くの子どもたちがおはなしや良書に触れる機会を拡充します。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら、おはなし会やイベント等を実施できるように努めてまいります。</p>

<p>項目</p>	<p>2 学校図書館充実のための支援</p>
<p>目標・取組概要</p>	<p>学校教育改革プランを受け、市内の小・中学校、指導室と連携を図りながら、学校図書館充実のための支援を行います。また、学校司書のスキルアップを図るため、研修の実施や日常的なサポート体制を充実させます。</p>
<p>自己評価</p>	<p>学校への団体貸出の冊数は、平成30年度が1,777冊に対し、令和元年度は2,247冊となり、前年度の126.4%になりました。ブックトーク(*12)は、平成30年度が実施日数7日、実施回数11回に対し、令和元年度は実施日数15日、実施回数25回と、回数・日数共に倍以上の伸びを見せました。これらは学校司書に対する研修や助言、これに伴う学校及び学校司書の取り組みにより向上した結果と言えます。小学校へのブックパック(*13)の貸出を継続実施し、学校図書館の蔵書とは一味違うラインナップであり、子どもたちに有効に活用されたという意見を多数いただきました。</p>

	 <p style="text-align: center;">団体貸出 小学校での展示例</p>	 <p style="text-align: center;">ブックパック</p>
<p>今後の課題と対応の方向性</p>	<p>学級文庫の充実や授業以外にクラス単位で使用する資料の提供等に対応するため、クラスカードの発行や、中学校へのブックパックの実施を検討します。また、学校司書の研修の実施や学校図書館運営のサポートを継続的に実施することにより、学校司書のスキルアップを図り、より充実した学校図書館運営のための支援を行います。</p>	

〈学校司書からの意見〉

- * 運営面等について、日常的に相談できる体制になって安心感がある。

3 市民との協働により、市民が集い、学び、活躍できる場の整備

市民の知的要求にこたえる学習拠点として、市民との協働の下、生涯にわたる学びを支える機会・場を提供します。

<p>項目</p>	<p>1 市民との協働</p>
<p>目標・取組概要</p>	<p>図書館と市民ボランティアの協働で各種行事や講座等を展開することにより、ボランティアの活動成果を市民に還元していただく機会を作ります。また、新たなボランティア養成にも取り組みます。</p>
<p>自己評価</p>	<p>図書館を拠点に市民参加型ボランティアが「読み聞かせ、本の修理、音訳テープの作成等」積極的な活動を行っています。ボランティアによるおはなし会は、年間151回実施しました。また、活動するメンバーの高齢化に対応するために、おはなしボランティア養成講座を開催しました。講座生の発表を3月に予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止となったため、今後のフォローアップが必要です。</p> <p>① 保健センターが実施する3・4か月児健診時にブックスタートボランティアとともに、延べ500人の乳児とその保護者に対し、親子のコミュニケーションの大切さを伝えるため、読み聞かせや絵本の無料配布（ブックスタート）を実施し、早くから本と触れ合う機会の提供と、親子のふれあいを支援しました。</p> <p>② おはなしボランティアとの協働により、初めての試みとして「ようこそ守谷へ2019」でブース出展し、新しく守谷市民となられた方へ、図書館をPRしました。</p> <p>③ 手話サークルによる「やさしい手話講座」の開催や、本の修理ボランティアによる「本の修理体験会」を実施し、活動の成果を市民に還元していただくことができました。</p>

	 <p style="text-align: center;">ようこそ守谷へ 2019</p>
<p>今後の課題と 対応の方向性</p>	<p>ボランティアの育成と支援に継続的に取り組むとともに、活動成果の発表機会の拡充に努めます。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえ、ボランティアの意見を尊重し、事業実施の方向性を随時決定していきます。</p>

〈外部の方々から頂いた意見〉（ボランティア〔アンケートより〕）

- * 新たなボランティアの養成を実施してくれて良かった。
- * 育成講座開催に当たり、講座内容について希望を聞いてくれて良かった。

【用語の解説】

- * 1 学習支援ティーチャー・・・市内の小中学校に、教員と連携して複数の指導者による学習指導(チームティーチング)や少人数指導を行う守谷市独自の支援事業です。生活指導や学習指導にあたることができる学習支援員を配置し、個に応じたきめ細やかな指導を行っています。
- * 2 スクールソーシャルワーカー・・・児童生徒の諸問題に対して、保護者や教職員と協力しながら解決を図る専門職です。心理的なアプローチをしながら問題の解決を目指すスクールカウンセラーに対して、スクールソーシャルワーカーは、児童生徒を取り巻く環境に働きかけをしながら諸問題にアプローチします。
- * 3 訪問型支援「アウトリーチ」・・・アウトリーチとは本来、手を差し伸べるといった意味をもち、介護や福祉の分野において用いられている用語で、ソーシャルワークや福祉サービスを提供する機関が利用希望者に手を差し伸べ、利用を実現させる取組を「アウトリーチ」と言います。教育の分野においては、教育支援センターを中核として、不登校等児童生徒の諸問題への対応においても、アウトリーチがよりよい効果を及ぼす可能性が高いと言われています。このような背景からも、教育支援センターと学校が連携しながら不登校児童生徒の家庭を訪問し、保護者に対して相談や情報提供をしたり、児童生徒の実態に応じて学習支援や登校刺激を行ったりする援助支援を、守谷市総合教育支援センターにおけるアウトリーチとして位置付け取り組んでいます。
- * 4 ICT・・・「Information and Communication Technology(情報通信技術)」の略で、パソコンやスマートフォン、タブレット、電子黒板など、さまざまな形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称です。
- * 5 インタラクティブ・フォーラム・・・茨城県英語教育研究部の主催による、中学校2年生と3年生の生徒を対象とした英会話のコンテストです。ある話題に基づいて英語で会話を交わしながら英語を用いて双方向的かつ論理的にコミュニケーションを図る力を高めることを目的としています。各学年から3名の代表生徒が市大会に参加します。

- *6 プログラミング・・・自分が意図する動きを実現するために、コンピュータに指示を与えることをプログラミングと言います。例えば、スマートフォンで使われているアプリなども、プログラミング（例：メールを読んだら既読にするという動きをコンピュータに指示（プログラム）する）により作られたものです。
- *7 エドテック・・・EdTech（エドテック）とは Education（教育）と Technology（科学技術）を組み合わせた造語です。教育分野においても、コンピュータに代表される科学技術を駆使して、学習や教育環境を劇的に変革（イノベーション）しようとする取組です。インターネットを介することで、広い世界での双方向でのコミュニケーションがより可能となったり、教師の業務の効率化が図られたりする等の大きな期待が寄せられています。
- *8 ゲストティーチャー・・・学校に招き、授業を行っていただく学校以外の団体や地域住民の方々を呼ぶ総称です。小学校の授業において、昔の遊びを伝承したり、田植えの技能を指導したりする地域住民の方々や、キャリア教育の一環として、プロフェッショナルな職業について講義をする諸団体の方々等、ゲストティーチャーの活用は多岐にわたっています。
- *9 プログラミング的思考・・・自分が意図する一連の活動を実現するためにどのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号をどのように組み合わせたらいいのか記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力です。
- *10 ADEAC（アデアック）・・・貴重な資料の損失を防ぎ、自治体や古文書等をデジタル資料化し、公開するシステムです。現在守谷市では「守谷町史」「守谷わがふるさと」「小学校社会科副読本『もりや』」等、6種がデジタル化されています。
- *11 ドライ運用・・・床を乾かした状態で使用することです。
- *12 ブックトーク・・・あるテーマにそって、何冊かの様々なジャンルの本を順序だてて紹介すること
- *13 ブックパック・・・朝読書の時間などに読んで欲しい本の「読書推進セット」。1回当たり300冊（50冊×6学年）を2か月間貸出するサービス。A、B、Cと3セットあり、1年で小学校9校を巡回します。